

入学後まもなく不適應状態になり始めた生徒への初期対応の事例

キーワード：**迅速な初期対応**

危機介入の手順

チーム支援

作戦会議のプロセス

この事例解説では、初期対応の失敗例に学ぶという視点でまとめました。

H美の
様子

H美は、入学後から少しずつ欠席しはじめ、4月は5日間休み、5月連休後もぼつぼつと欠席が見られた。連続して休むことはなかった。理由は、すべて体調不良であった。母親は、「中学校でも年間2週間程度休んでいた。続けて休むことはなかった。気持ちの問題ではないかと思うものの、これといって思い当たることはない」と言う。

担任はH美に「何かあったのか？」と聞いても、「大丈夫です。特にいやなことはありません。明日は登校できます。」などと言われると、それ以上踏み込みめなっていた。実際、翌日は登校し明るく振る舞っているため、つい様子を見てしまう。

このよう
な生徒に
対して、
どのよう
に対応す
ればいい
か？

迅速な初期対応が大切です

担任は、欠席が連続せず、登校すると明るく振る舞っている姿を見ると、「様子を見る」ことになりがちです。様子を見るのがよくないというわけではありませんが、見ているだけで、何もしないでよいということではありません。様子を見る間に、すべきことがあります。有益な情報の収集です。担任は、4月に欠席が3日を超えた時点で、早急に情報を集めるべきでした。

中学校では、年間2週間ほど欠席があったものの、連続した欠席はなく、部活動も熱心だったとのこと。もしかしたら、中学校では何か有効な手立てを講じてきていたのかもしれない。そうした、資源情報（使える、役に立つ、参考になる情報）を丁寧に集めます。中学時代、H美自身がこうした状況をどう捉えているかがわかる情報も大切です。

家庭では、こうした欠席に対して、誰が、どのように対応してきたのか、その結果、どのような効果があったのか。また、どのようなやりとりの末、登校したり欠席校したりするのか、そうしたパターンを具体的に聞く必要があります。H美自身がこうした状況をどう捉えているかがわかる情報も大切です。

聴く側の教師は、簡単にわかったつもりにならず、また、表現をいろいろ変えてみながら、さらによりの確に理解しようと質問します。

「大丈夫」というのは、「自分で何とかやりくりできるってこと？」「もう少しガマンできるってこと？」「原因がわかっているということ？」などと言葉を換えて聞いてみます。

そのほかに、次のような質問も使ってみます。

「学校のことを思い浮かべたとき、いやな感じがするのは何？クラス？勉強？それとも全部？」

「今どんなことを考えている？」

「中学校での欠席と今の欠席は同じような感じなの？」

「体調不良でも、どうして連続欠席しないで登校できているの？」

チーム
支援

初期対応
のためには、どの
ような情報
を収集し、チ
ームで共有
すればよい
のか？

H美への対応を図るため、学年長、担任、教育相談係、養護教諭で作戦会議を開き、それぞれがもっている情報を共有し合った。

担任からは、「家族関係は良好で、特に問題はないと感じている」、「小学校高学年から登校しぶりが見られ、中学校では3年間で50日ほどの欠席。連続しての欠席はなかった」、「欠席の原因は体調不良で、本人もなぜ調子が悪いかわからないと言う」、「部活動には熱心に取り組んでいた」、「教室ではにこやかにしている」などの情報が示された。

危機介入の手順を活用して情報を収集しましょう

《教師は、次のような内容をふまえて被害生徒から話しを聴きます》

危機をもたらした事件を理解します。

事件の前後の様子を中心に聴きます。
時間の経過を順に追って聴きます。

その事件についての捉え方を理解します。

その事件をどのように受け止めたか聴きます。
そのときの気持ちはどうだったか聴きます。

これまで、どのような対処方法を取り、効果はどうだったか理解します。

考え方を変えてみたことがあるか、それはどうだったか聴きます。
言動を変えてみたことがあるか、それはどうだったか聴きます。
誰に、どんなサポートをもらって、それがどうだったのか聴きます。
その他やってみたことがあるか、それはどうだったか聴きます。

今現在、サポートする人的・物的資源があるか理解します。

力になってくれた人や相談したい人がいるか聴きます。
気分転換になったり、元気が出るようなことは何か聴きます。
目の前にいるこの私はサポートすることを伝えます。

これからどうしたいか、何ができるか、当面の対処行動を理解します。

誰かに、どこかにつなげてほしくはないか聴きます（話し合います）。
今日、明日のところでどんな行動をとるか、何をどうしたいか聴きます（話し合います）。
その対処行動の結果を確認するため、次の面談日時を確認します。



【参考文献】・山本一郎『危機介入とコンサルテーション』ミネルヴァ書房2000

- ・大野精一著、「危機介入の方法」、『月刊学校教育相談』2001, 5月号, ほんの森出版
- ・「いじめの兆候発見時の取組事例」に学ぶ（平成19年度岩手県中学校の事例より）